

第15回神戸市医療安全推進協議会議事録（要旨）

1. 日時：平成29年11月29日（水）13：25～14：50

2. 場所：神戸市市役所1号館 8階 保健福祉局大会議室

3. 議事

(1) 委員長・副委員長の選出について

(2) 医療安全相談窓口の活動状況について

①平成29年4～10月「医療安全相談窓口」相談実績報告

②平成27年度～平成29年度 出前トーク実施状況

③相談事例紹介

(3) その他

平成29年度医療機関向け医療安全研修会の開催について

4. 会議資料

・神戸市医療安全推進協議会 委員名簿

・神戸市医療安全推進協議会 配席図

・資料1 平成29年度4～10月「医療安全相談窓口」相談実績報告

・資料2 「医療安全相談窓口」相談実績報告

・資料 相談事例（委員限りの配布）

・資料4 神戸市保健所医療安全に関する講演会の開催について

5. 議事要旨

・開会（司会：予防衛生課長）

・保健所長あいさつ（神戸市保健所長）

・委員紹介

・議事

(1) 委員長・副委員長の選出について

長桶委員を委員長に、岡田委員を副委員長に任命し、それぞれ就任した。

長桶委員長が議長として、以下の議事進行を司った。

(2) 医療安全相談窓口の活動状況について

①平成29年4～10月「医療安全相談窓口」相談実績報告

事務局から資料1により説明

○委員

案内先の弁護士相談の中に兵庫県医療問題研究会とあるが、どのような会か。

○委員

任意団体である。

○委員

兵庫県弁護士会ではなく兵庫県医療問題研究会に案内するのはどういったときか。

○事務局

兵庫県弁護士会をメインに案内するが、他窓口の有無について聞かれた場合、複数の選択肢として併せて案内している。個別に案内はしていない。

○委員

数の上でも（兵庫県弁護士会 14 件、兵庫県医療問題研究会 11 件と）併せて案内していると思うが、任意団体である医療問題研究会を紹介するのであれば、個別の弁護士さんも紹介する必要性がでてくる。ホームページを作って活動している団体以外にも医療問題に対して積極的に活動している弁護士さんもいるので、（医療問題研究会を）公式な形で案内先として入れるのはいかがなものかと思う。

○委員

弁護士数が増えてきて、場合により紛争を促すこともあるので、兵庫県弁護士会を案内するのが本筋だと思う。

○委員

弁護士案内した具体的な事例を教えて欲しい。

○事務局

個々のデータは持ち合わせていないが、基本的に弁護士会に案内するときは、相談者が訴訟まで考えている場合である。説明をしても受け付けられない、賠償させたいと考えている方に案内している。

案内の仕方も兵庫県弁護士会を案内し、他の窓口を問われたときには案内している。弁護士会さんも相談内容から兵庫医療問題研究会に振るという話も聞いており、間違った案内ではないという認識であった。

○委員

まずは兵庫県弁護士会や法テラス等の公的機関に紹介し、その後の判断は兵庫県弁護士会、法テラスに委ねるのが筋だと思う。

○委員

繰り返すようだが、一部の私的な団体に誘導することは望ましくない。

○事務局

窓口設立当初に案内先を模索していく中で、（医療問題研究会が）弁護士団体であることから案内を始めた経緯がある。積極的に勧めているわけではない。

今回意見をもとに確認、検討していく。

○委員

医療 ADR はどういう団体か。

○事務局

医療機関、患者の間で、訴訟まで考えていないが、仲介することで問題解決を促すことを目的とする団体である。こちらが案内しても必ずしも医療 ADR が動くかは把握していない

○委員

医療 ADR に案内する相談とはどういったものか。

○事務局

相談者が訴訟までは考えず、病院と話し合っただけで何とかしていかうと考えている場合の案内先として紹介している。また、行政が仲介してくれとの相談を受けた場合に、行政は仲介に入れないため案内するときはある。

○委員

医療 ADR は民間団体か。

○事務局

公益社団法人 総合紛争解決センターが運営している。

②平成 27 年度～平成 29 年度 出前トーク実施状況

事務局から資料 2 により説明

○委員

今年の参加人数は少ないが何か理由はあるのか。

○事務局

出前トークは市の施策であり、全市で 189 のテーマがある。広報はホームページ、また 4 月にテーマを改定するのでそれに合わせて広報誌、ふれあいまちづくり協議会で紹介している。全体の流れとして新しいテーマが出ると、古いテーマには申し込みが減少するという傾向があるのかもしれないと考えている。

○委員

裾野があまり広がらないということを現しているのだと思う。新しいテーマを出さないと、1 度聞いたらもういいとなる。

○事務局

まだ聞いていない団体から申し込みがあればいいが、(情報が) 行き渡っているのかはわからない。

○委員

お薬手帳も項目にあるが、薬剤師会の援助を得て何か新しい取り組みをやっていくとか工夫されてはどうか。

○委員

薬剤師会として予算立てしなくても個別には行っており、声がかかれば講師を引き受ける者もいるとは聞いている。栄養士等他職種の方とも共同で行うことも考えてい

る。

○委員

もし（薬剤師会の講演の依頼）希望があればどこに申し込めばいいのか。

○委員

薬剤師会、若しくは薬局を通して申し込んでいただければ。

○委員

栄養士と組んで行うという話がでたが。

○委員

今はまだ構想段階である。

○委員

官から民へと、公的にやらなくてもいいとの理解もできる。

○委員

セルフメディケーションということであれば、薬剤師会には専門的な人員もあり、市民に寄り添う形で畏まることなく、健康ということを伝えていければと考えている。

○委員

最新の医療に関してトピックスとしてあげられている項目が数年来変わっていないと思う。新しいテーマを調べ、他職能団体を巻き込んで何か企画をすれば申し込みがあるかもしれないし、そういったことが必要だと考える。

○事務局

医療安全に関することでは難しいが、行政だけでやるのではなく団体協力を求めてやっていくことを考えるのも必要かもしれない。

○事務局

出前トークはテーマに沿って申し込みがあれば行くスタイルであり、これは古いやり方かもしれない。

○委員

同じテーマを複数の講師が話せるようにする必要があるため、1度決めると変えにくいのだと思う。もし聞きたい話があるなら当団体（薬剤師会）に言ってもらえれば柔軟に対応していく。

③相談事例紹介

(3) その他

①平成29年度医療機関向け医療安全研修会の開催について

事務局から資料4により説明

○委員

広報はどうされているのか

○各団体、また団体に加入されていない病院には個別に案内文を送付。ホームページにも掲載する。

②その他

○委員

今年から選定療養費の金額が倍以上となったがその理由と効果を教えて欲しい。

○事務局

各病院が自由に設定していると思う。今年になり値段統一されるようになったかはわからない

○委員

選定療養費は各病院の機能を有効に活用するためであり、政策的に国が動かしている。受診抑制は為されていると考えている。

○委員

紹介状無しの受診は減少していると思う。

金額に関しては少なくとも特定機能病院では 5000 円以上になっていると思う。金額が少なければ抑制効果が期待できない。

○事務局

国として医療資源を有効に提供するようにというのが目的である。

○委員

家庭医を持ちなさいといわれるが、現状はどうか。

○委員

すでに家庭医をもっている方は 7~8 割いる。持っていたほうが相談しやすいし、何かあれば病院紹介等適切に対処してもらえと思う。

○委員

もっと普及していけば様々な問題が解決すると思う。